

大分大学大学院医学系研究科修士課程 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー:AP)

基本理念

複雑化・高度化する医学・医療の分野で、常に最新の学術を教授・研究し、高度の医学及び看護学の知識と技術並びにそれらの本義を見失わない倫理観と、それを支える豊かな教養を身につけた教育・研究者及び医療人を養成し、もって医学及び看護学の進歩、国民の健康の維持増進、更に医療・保健を中心に地域及び国際社会の福祉に寄与することが基本理念です。

教育・研究の目標

修士課程

優れた指導力を持った教育・研究者、医療人及び技術者を育成するため、理論的・実践的教育を通じて、医学・医療の諸問題に対処できる判断力と問題解決能力の涵養を図ります。

(看護学専攻)

社会や保健・医療・福祉の変化を見据え、看護の質向上を実現できる実践力を養い、看護実践・看護管理・看護教育の場でリーダーシップを発揮できる高度専門職業人を養成します。

求める学生像

修士課程

(看護学専攻)

- 1 看護実践及び看護管理に関する高度な専門知識及び技術の修得を志す人
- 2 保健・医療・福祉の専門職との連携において、看護専門職として主体的行動ができ、優れた指導力を発揮する能力を培うことを志す人
- 3 看護の理論と実践に関する豊富な知識と高度な技術を修得し、優れた教育活動の実施を志す人
- 4 看護理論の検証や看護技術の開発・検証を行い、実践に応用することを志す人
- 5 複雑かつ多様な健康問題について、柔軟に対応することができ、学術的・国際的に活躍することを志す人

入学者選抜の基本方針

修士課程

(看護学専攻)

前述の「求める学生像」にふさわしい学生を選抜するため、昼夜開講制を導入して看護職経験者を積極的に受け入れます。こうした志願者を含め看護学の更なる探究心と倫理観豊かな医療人としての素養を求めます。

この方針のもとに、入学者の選抜は、筆記試験及び口述試験の結果を総合して行います。

選抜試験で重視する観点

入試区分	検査項目	求める学生像				
		高度な専門知識及び技術の修得を志す	優れた指導力を発揮する能力を培うことを志す	優れた教育活動の実施を志す	看護理論の検証や看護技術の開発・検証を行い、実践に応用することを志す	学術的・国際的に活躍することを志す
修士課程入試	筆記試験	◎	○	○	◎	◎
	口述試験	◎	◎	○	◎	○

◎は、特に重視する

大分大学大学院医学系研究科博士課程 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー:AP)

基本理念

複雑化・高度化する医学・医療の分野で、常に最新の学術を教授・研究し、高度の医学及び看護学の知識と技術並びにそれらの本義を見失わない倫理観と、それを支える豊かな教養を身につけた教育・研究者及び医療人を養成し、もって医学及び看護学の進歩、国民の健康の維持増進、更に医療・保健を中心に地域及び国際社会の福祉に寄与することが基本理念です。

教育・研究の目標

博士課程

豊かな学識及び人間性を持った人材を育成し、国際的に活躍できる自立した教育・研究者及び診療能力の高い臨床医を養成します。

求める学生像

博士課程

- 1 医学の分野において、国際的な舞台で活躍することを志す人
- 2 専門分野における高度な知識を吸収し、その整理・明確化を行い、問題点の発掘を行い、その本質を基礎医学、臨床医学、社会医学等の枠にとらわれない総合的・科学的観点から探求し、自らが設定した課題について研究を志す人
- 3 自らの研究成果について、国際的に評価の定まっている学術誌に公表し、積極的に評価を受けることを志す人
- 4 医学の進歩に貢献し、人類の健康について、維持・増進への取り組みを志す人
- 5 国民のがんに対する関心・意識の高まりに伴い、高度な教育・研究・診療能力を兼ね備えたがんプロフェッショナルを志す人

入学者選抜の基本方針

博士課程

前述の「求める学生像」にふさわしい学生を選抜するため、高度な専門的知識、技術及び能力を求めます。また、これらを支える高い道徳観と豊かな人間性を備え、国際的・学際的に活躍できる資質を求めます。

この方針のもとに、入学者の選抜は、筆記試験及び口述試験の結果を総合して行います。

選抜試験で重視する観点

入試区分	検査項目	求める学生像				
		国際的な舞台 で活躍するこ とを志す	自らが設定し た課題につい て研究を志す	積極的に評 価を受ける ことを志す	人類の健康に ついて, 維持・ 増進への取り 組みを志す	高度な教育・研究・ 診療能力を兼ね備 えたがんプロフェ SSIONALを志す
博士課程入試	筆記試験	◎	○	○	○	○
	口述試験	○	◎	○	◎	○

◎は、特に重視する